SERENA® CHANGEMAN® VERSION MANAGER™
コマンドラインクイックリファレンスガイド

Copyright © 2001-2005 Serena Software, Inc. All rights reserved.

本マニュアルとここで説明されているソフトウェアは、ライセンス下で提供されており、ライセンスの条件に従ってのみ使用またはコピーすることが許可されています。ライセンスで許可されていない限り、本書のいかなる部分も、Serena の文書による事前許可なく、いかなる形式または電子的、機械的記録方法で、複写、保存システムへの保管、転送することはできません。複製されたドキュメントには、全部または一部であるかにかかわらず、この著作権の記述すべてが、変更されることなく含まれていなければなりません。

本書の内容は、情報を提供するものであり、予告なく変更される場合があります。また、Serena による義務と解釈されるものではありません。Serena は、本書のエラーまたは不正確性についていかなる責任も義務も負うことはありません。

商標

Serena、ChangeMan、TeamTrack、Collage、PVCS、StarTool および Comparex は Serena Software, Inc. の登録商標です。Build、Builder、Dimensions、Meritage、Mover、Professional、SAFE、RTM、Tracker および Version Manager は、Serena Software, Inc. の商標です。

その他のすべての製品または企業名は、識別する目的でのみ使用されており、それぞれの所有者の商標である場合があります。

米国政府の権利

米国政府や政府機関またはその代理機関の非許諾者がこの契約の下で取得したいかなるソフトウェア製品も、FAR では「商用ソフトウェア」と定義されています。米国政府による使用、複製、公開は、ソフトウェアを取得したライセンスによる制限の対象となります。製造元：Serena Software, Inc., 2755 Campus Drive, San Mateo, CA 94403

部品番号：MA-VMCLI-J02

発行日：2005 年 4 月

目次

コマンドラインクイックリファレンスガイド 5
アーカイブと作業ファイルの指定 5
ディレクティブ 5
FILT コマンド 8
GET コマンド 9
グループ定義 10
IDENT コマンド 10
キーワード 11
MAKEDB コマンド 11
PRINTENV コ マンド 12
権限の定義 12
権限（ベース） 12
権限（コンポジット） 13
権限セット 14
PUT コマンド 14
READDB コマンド 16
REGEN コマンド 16
リビジョン範囲の指定 17
RSE コマンド 17
ユーザ定義 17
VCOMPRES コマンド 17
VCONFIG コマンド 18
VCS コマンド 19
VDEL コマンド 21
VDIFF コマンド 22
バージョン範囲の指定 23
VJOURNAL コマンド 23
VLOG コマンド 24
VMRG コマンド 25
VPROMOTE コマンド 26
VSPLIT コマンド 26
VSQL コマンド 27
VTRANSFER コマンド 28

コマンドラインクイックリファレンスガイド

アーカイブと作業ファイルの指定

コマンド使用する構文	指定するファイル形式
file_name	ファイル。Version Manager は、ファイルがアーカイブであるか作業ファイルであるかを決定します。
archive	アーカイブ。
(*workfile*)	作業ファイル。
archive（*workfile*）[1]	アーカイブと作業ファイルの両方。
［*drive*:］*path*（*workfile*）[1]	有効なアーカイブのフルパスと作業ファイル名。

1. 特殊文字（右かっこや左かっこなど）を含むファイル名をコマンドラインインターフェイスで使用する場合は、アーカイブ名、作業ファイル名、またはパス名の区切り文字として定義された文字が、ファイル名で使用されて*いない*ことを確認してください。詳細については、『Serena ChangeMan Version Manager コマンドラインリファレンスガイド』を参照してください。

ディレクティブ

次の表に、コマンドラインディレクティブを示します。ディレクティブには、アーカイブの作成中にのみ適用されるものと、一般の操作中に適用されるものの 2 種類があります。一般の操作中に適用されるものには、アーカイブ作成中にも適用されるものがあります。この 2 種類は、**種類**列で **AC**（アーカイブ作成）および **O**（一般操作）ラベルにより区別されています。

ディレクティブ	使用する構文	用途	種類
Abort	Abort [*exit_code*]	コンフィグレーションファイルの処理をすべて停止します。	O
AccessControl	[No]AccessControl	プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用するかどうかを指定します。	O
AccessDB	AccessDB=*file_name* [[No]WriteProtect]	アクセスコントロールデータベースを指定します。	O
AccessList	AccessList=[*user_id* [,*user_id*...]]	アーカイブにアクセスできるユーザを指定します。	O
Alias	Alias *name*=*string_value*	文字列をシンボリック参照します。	O
ArchiveSuffix	ArchiveSuffix=*suffix_template*	アーカイブの拡張子を指定します。	AC
ArchiveWork	ArchiveWork=[*path_name*] NoArchiveWork	アーカイブのテンポラリコピーを保存するディレクトリを指定します。	O
AutoCreate	[No]AutoCreate	PUT コマンドを使用して自動的にアーカイブを作成します。	O
BaseVersion	BaseVersion=*version_label*	ブランチの分岐元となるリビジョンを指定します。	O

ディレクティブ	使用する構文	用途	種類
BranchVersion	BranchVersion=*floating_version*	ブランチのチップリビジョンを指定します。	O
BranchWarn	[No]BranchWarn	ブランチを作成する前にユーザに警告を表示します。	O
Case	[No]Case=VCSID	ユーザ ID で大文字と小文字を区別するかどうかを指定します。	O
CheckLock	[No]CheckLock	ロックのチェックを有効にします。	AC
ColumnMask	ColumnMask [*.ext...*]=*col_start-col_end* [(numeric)]...	ファイルの比較時に無視するカラムを指定します。	AC
CommentPrefix	CommentPrefix [*.ext...*]=*string*	Log キーワード展開時に行の前に挿入するコメント文字列を定義します。	AC
Compress	[No]Compress [*.ext...*]	アーカイブ全体を圧縮します。	AC
CompressDelta	[No]CompressDelta [*.ext...*]	デルタのみを圧縮します。	AC
CompressWork Image	[No]CompressWorkImage [*.ext...*]	作業ファイルコピーのみを圧縮します。	AC
CtrlZ	[No]CtrlZ	Ctrl+Z の後の文字を無視します。	O
DateFormat	DateFormat=*mm/dd/yy hh/mm/ss*	日付の入力形式を指定します。	O
DefaultVersion	DefaultVersion=*ver_label*	リビジョンが指定されていない場合に使用するリビジョンを指定します。	O
DeleteMessageFile	[No]DeleteMessageFile	メッセージファイルを読んだ後に削除します。	O
DeleteWork	DeleteWork NoDeleteWork [No]WriteProtect	作業ファイルを保存後に削除します。	O
Delta Delete	Delta Delete "*format string*"	デルタファイルに Insert コマンドの構文を定義します。	O
Delta Insert	Delta Insert "*format string*"	デルタファイルに Insert コマンドの構文を定義します。	O
Delta Replace	Delta Replace "*format string*"	デルタファイルに Replace コマンドの構文を定義します。	O
Delta Seq	Delta Seq *start-end* | COBOL	連番に基づいてデルタコマンドを生成します。	O
Diagnostic	Diagnostic=*code*	診断機能を選択します。`code` の可能性のある値は以下のとおりです。 1 コンフィグレーションファイルの各行を表示します。 2 内部エラーを表示します。 4 版権とバージョンの表示/非表示を切り替えます。 500 アーカイブの所有者、アクセス情報、ユーザ ID、権限を表示します。	O
Disallow	Disallow=*directive...*	ユーザがディレクティブを変更することを禁止します。	O
Echo	Echo=*message*	メッセージを表示します。	O
End	End	このコンフィグレーションファイルの処理をすべて停止します。	O

ディレクティブ	使用する構文	用途	種類
EndMaster	EndMaster	ファイルの一部をマスターコンフィグレーションファイルとして取り扱うのを中止します。	O
EventTrigger	EventTrigger=`event_name` [`event_trigger_info`]	Version Manager イベントの前または後に、命令を実行します。	O
ExclusiveLock	[No]ExclusiveLock	アーカイブ内の複数のリビジョンのロックを禁止します。	AC
Expand Keywords	[No]ExpandKeywords [*.ext*...]	リビジョンを保存するときにキーワードを展開します。	AC
Expand Keywords Touch	ExpandKeywords [No]Touch	キーワードの展開時にタイムスタンプを更新します。	O
FirstMatch	FirstMatch	ワイルドカードの解釈方法を指定します。	O
ForceUnlock	[No]ForceUnlock	変更されていないリビジョンを保存する場合にロックを解除し、作業ファイルを削除します。	O
GenerateDelta	[No]GenerateDelta [*.ext* ...]	指定した拡張子を使って、作業ファイルのデルタ生成をコントロールします。	AC
IgnorePath	[No]IgnorePath	アーカイブを検索するときに作業ファイルのパスを無視します。	O
Include	Include *configuration_file*	別のコンフィグレーションファイルを読み込みます。	O
Journal	Journal=[*path_name*] [*journal_file*]	アーカイブの変更に関する監査証跡を記録します。	O
LogIn	LogIn *source*[(`default privilege` [,...])[,...]	ユーザ ID ソースを指定します。	O
MessageSuffix	Messagesuffix=*suffix_template*	メッセージファイルの拡張子を指定します。	O
MonthNames	MonthNames=*m1 m2 m3 m4 m5 m6 m7 m8 m9 m10 m11 m12* am pm	月および a.m./p.m に別名を指定します。	O
MultiLock	MultiLock [`revision` | `user`]NoMultiLock	複数のリビジョンをロックすること、あるいは各リビジョンを 2 回以上ロックすることを許可します。	O
NewLine	NewLine [*.ext*...]=*string*	Log キーワードの展開時に、行の終わり（EOL）標識を変更します。	AC
Owner	Owner=*user_id*	アーカイブの所有権を割り当てます。	AC
PathSeparator	PathSeparator=\ | /	キーワードの展開に使用されるパス区切り文字を変更します。	O
Promote	Promote *from_group to_group*	プロモーション階層を指定します。	O
Quiet	Quiet | Verbose	最小限のメッセージだけを表示します。	O
RecordLength	RecordLength [*.ext*...]=*record_length*	論理レコード長を指定します。	AC
ReferenceDir	ReferenceDir= [*keyword*...] [*directory*]	チップリビジョンのコピーが自動的に保存されるディレクトリを指定します。	O
Renumber	Renumber [*.ext*...]= col_*start*–col_*end* [from *start* by *num*]	マスクされたカラムに番号を付け直します。	AC

ディレクティブ	使用する構文	用途	種類
RFSSplitOnCreate	RFSSplitOnCreate | NoRFSSplitOnCreate	アーカイブが Version Manager File Server にマップされている場合、アーカイブをメタデータとリビジョンデータに分割します。	AC
Semaphore	[No]Semaphore [local] [network] = [*semaphore_type*]	共有アーカイブに排他的にアクセスできるようにします。	O
SemaphoreDelay	SemaphoreDelay=*number*	アーカイブにアクセスするときのリトライ間隔を指定します。	O
SemaphoreDir	SempahoreDir=*path*	セマフォファイルが作成されるディレクトリを指定します。	O
SemaphoreRetry	SemaphoreRetry=*number*	アーカイブにアクセスを試みる回数を指定します。	O
SemSuffix	SemSuffix=*suffix_template*	セマフォファイルに使用される拡張子を指定します。	O
SignOn	[No]SignOn	版権とバージョン情報を表示します。	O
Translate	[No]Translate [.*ext*...]	EOL シーケンスを変換します。	AC
VCSDir	VCSDir=[;]*dir* [(*ref_dir*)]...	アーカイブが保存されるディレクトリを指定します。	O
VCSEdit	VCSEdit=*editor_command* [*editor_option*...] $temp_file$	コメントの入力に使用するテキストエディタを指定します。	O
VCSID	VCSID=*user_id*	現在のユーザ ID を指定します。	O
WorkDir	WorkDir=*path_name*	テンポラリファイルのディレクトリを指定します。	O
WriteProtect	[No]WriteProtect	アーカイブを読み取り専用ファイルにします。	AC

FILT コマンド

filt [`option`...] [`input_file`|-] [`output_file`]

オプション	使用する構文	用途
-c		フィルタキーの大文字と小文字を区別します。
-e	-e*x*	フィルタコントロールを行うエスケープ文字 *x* を定義します。デフォルトのエスケープ文字は % です。
-k	-k*key*[,*key*...]	true の値を割り当てる 1 つ以上のキーを指定します。
-p	-p*column*	エスケープ文字が現れるカラムを指定します。デフォルトは 1 カラム目です。
-v		すべての環境変数をフィルタキーとして定義します。

GET コマンド

get [*option...*] *file_name...*

オプション	使用する構文	用途
@	@[*list_file*]	追加コマンドラインオプション用に *list_file* を読み込みます。
-#	-#*code*	診断機能を選択します。*code* の可能性のある値は以下のとおりです。 1 コンフィグレーションファイルの各行を、処理するときに表示します。 2 内部エラーを表示します。 4 版権とバージョンの表示 / 非表示を切り替えます。 500 アーカイブの所有者、アクセス情報、ユーザ ID、権限を表示します。
-c	-c[- | *configuration_file* | *directory_name*]	代替コンフィグレーションファイルのファイル名または場所を指定します。
-d	-d*date/time*	*date/time* 以前またはその日にチェックインされた最新のリビジョンをチェックアウトします。
-g	-g*promotion_group*	プロモーショングループによってリビジョンをチェックアウトします。
-h		コマンドラインオプションのヘルプを表示します。
-l	-l[*revision_number* | *version_label* | *promotion_group*]	現在のユーザ ID でリビジョンをロックします。
-p		既存の作業ファイルを上書きしません。
-p		作業ファイルを作成する代わりに出力結果を表示します。
-q		サイレントモードを選択し、作業ファイルを上書きします。
-qo		サイレントモードを選択し、作業ファイル上書きの許可を求めます。
-qn		サイレントモードを選択し、既存の作業ファイルを上書きしません。
-r	-r[*revision_number* | *version_label* | *promotion_group*]	チップリビジョンをチェックアウトするか、リビジョン番号またはバージョンラベルでチェックアウトするバージョンを指定します。
-s	-s*suffix_template*	代替拡張子テンプレートを指定します。
-t	-t[*revision_number* | *version_label* | *promotion_group*]	現在のタイムスタンプをチェックアウトしたファイルに割り当てます。
-u	-u[*date/time*]	変更時間が既存の作業ファイルより新しい、または日付 / 時間より新しい場合にのみリビジョンをチェックアウトします。
-v	-v*version_label*	バージョンをチェックアウトします。
-w	-w[*revision_number* | *version_label* | *promo_group*]	書き込み可能な作業ファイルをチェックアウトします。
-xe	-xe*file_name*	*file_name* にエラーメッセージをリダイレクトします。

オプション	使用する構文	用途
-xo	-xo*file_name*	標準出力を *file_name* にリダイレクトします。
-xo+e	-xo+e*file_name*	標準出力とエラーメッセージを *file_name* にリダイレクトします。
-xrenumber	-xrenumber=*col_start–col_end* [from *start* by *number*]	マスクされたカラムに番号を付け直します。
-y		すべてのプロンプトに対して、自動的に yes で応答します。

グループ定義

group [=] *group_name [(privilege...)] [:] [member...]*

IDENT コマンド

ident [*option*...] [*file_name*...]

オプション	使用する構文	用途
@	@[*list_file*]	追加コマンドラインオプション用に *list_file* を読み込みます。
-h		コマンドラインオプションのヘルプを表示します。
-xo	-xo*file_name*	標準出力を *file_name* にリダイレクトします。

キーワード

キーワード	参照
$Archive$	アーカイブの完全なパス名。
$Author$	リビジョンの作成者のユーザ ID。
$Date$	リビジョンのチェックイン日付。
$Header$	アーカイブ名、リビジョン番号、リビジョンの日付、および作成者のユーザ ID。
$Log$$log$	これまでのすべてのチェックインメッセージ。
$Modtime$	最終更新時刻。
$Revision$	リビジョン番号。
$Workfile$	作業ファイルの名前。

MAKEDB コマンド

makedb [*option*...] [*file_name*...]

オプション	使用する構文	用途
@	@[*list_file*]	追加コマンドラインオプション用に *list_file* を読み込みます。
-#	-#*code*	診断機能を選択します。*code* の可能性のある値は以下のとおりです。 1 コンフィグレーションファイルの各行を、処理するときに表示します。 2 内部エラーを表示します。 4 版権とバージョンの表示 / 非表示を切り替えます。 500 アーカイブの所有者、アクセス情報、ユーザ ID、権限を表示します。
-a	-a*database_name*	作成するアクセスコントロールデータベースの名前を指定します。
-c	-c[- | *configuration_file* | *directory_name*]	代替コンフィグレーションファイルのファイル名または場所を指定します。
-h		コマンドラインオプションのヘルプを表示します。
-i		デフォルトで SuperUser 権限が割り当てられる追加 Admin ユーザでアクセスコントロールデータベースを作成します。
-q		警告メッセージおよび版権とバージョンを非表示にします。
-v		アクセスコントロールデータベースが構築される際に各レコードを表示します。
-xe	-xe*file_name*	*file_name* にエラーメッセージをリダイレクトします。
-xo	-xo*file_name*	標準出力を *file_name* にリダイレクトします。
-xo+e	-xo+e*file_name*	標準出力とエラーメッセージを *file_name* にリダイレクトします。

PRINTENV コ マンド

printenv [*variable*...]

権限の定義

privilege [=] *privilege_name*: *component*[,*component*...] [:*promo_group*[,*promo_group*...]]

権限（ベース）

ベース権限	使用する構文	ユーザに許可される機能
AddGroup	[No]AddGroup	リビジョンにプロモーショングループを割り当てます。
AddVersion	[No]AddVersion	バージョンラベルを割り当てます。
BreakLock	[No]BreakLock	リビジョンのロックを解除します。
ChangeAccessList	[No]ChangeAccessList	アーカイブにアクセスできるユーザを指定します。
ChangeCommentDelimiter	[No]ChangeCommentDelimiter	コメント接頭辞を変更します。
ChangeOwner	[No]ChangeOwner	アーカイブの所有者を変更します。
ChangeProtection	[No]ChangeProtection	アーカイブの属性を変更します。
ChangeWorkfileName	[No]ChangeWorkfileName	作業ファイルの名前を変更します。
DeleteGroup	[No]DeleteGroup	リビジョンからプロモーショングループを削除します。
DeleteRevNonTip	[No]DeleteRevNonTip	リビジョンを削除します。
DeleteRevTip	[No]DeleteRevTip	チップリビジョンを削除します。
DeleteVersion	[No]DeleteVersion	バージョンラベルを削除します。
GetNonTip	[No]GetNonTip	チップ以外のリビジョンをチェックアウトします。
GetTip	[No]GetTip	チップリビジョンをチェックアウトします。
InitArchive	[No]InitArchive	アーカイブを作成します。
JournalReport	[No]JournalReport	アーカイブに対するすべての変更履歴を表示します。
LockNonTip	[No]LockNonTip	チップ以外のリビジョンをロックします。
LockTip	[No]LockTip	チップリビジョンをロックします。
ModifyChangeDescription	[No]ModifyChangeDescription	変更コメントを編集します。
ModifyGroup	[No]ModifyGroup	プロモーショングループを削除 / 移動します。
ModifyVersion	[No]ModifyVersion	バージョンラベルを変更します。
ModifyWorkfileDescription	[No]ModifyWorkfile Description	作業ファイルの説明を編集します。
Promote	[No]Promote	リビジョンをプロモートします。
PutBranch	[No]PutBranch	ブランチリビジョンを保存します。

ベース権限	使用する構文	ユーザに許可される機能
PutTrunk	[No]PutTrunk	トランクリビジョンを保存します。
StartBranch	[No]StartBranch	ブランチを開始します。
Unlock	[No]Unlock	ロックを解除します。
ViewAccessDB	[No]ViewAccessDB	アクセスコントロールデータベースを表示します。
ViewArchiveHeader	[No]ViewArchiveHeader	アーカイブヘッダ情報を表示します。
ViewArchiveRev	[No]ViewArchiveRev	リビジョン履歴を表示します。

権限（コンポジット）

使用するコンポジット権限	使用する構文	ベース権限の指定方法
DeleteRev	[No]DeleteRev	DeleteRevNonTip DeleteRevTip
Get	[No]Get	GetNonTip GetTip
Lock	[No]Lock	LockNonTip LockTip
ModifyDescription	[No]ModifyDescription	ModifyChangeDescription ModifyWorkfileDescription
Put	[No]Put	PutBranch PutTrunk
ViewArchive	[No]ViewArchive	ViewArchiveHeader ViewArchiveRev

権限セット

使用する権限セット	指定する権限
SuperUser	全アーカイブに対する全ベース権限。
Unlimited	アクセス可能なアーカイブに対する全ベース権限。
プロジェクトリーダ	「チップリビジョンのロック」、「チップ以外のリビジョンのロック」、「ロック解除」、「チップリビジョンのチェックアウト」、「チップ以外のリビジョンのチェックアウト」、「トランクへのチェックイン」、「ブランチへのチェックイン」、「ブランチの作成」、「アーカイブアクセスリストの変更」、「アーカイブ所有者の変更」、「アーカイブ属性の変更」、「コメント接頭辞の変更」、「バージョン管理ファイル名の変更」、「作業ファイルのコメントの変更」、「リビジョンのコメントの変更」、「バージョンラベルの割り当て」、「バージョンラベルの削除」、「バージョンラベルの変更」、「アーカイブの作成」、「チップリビジョンの削除」、「チップ以外のリビジョンの削除」、「アーカイブヘッダの表示」、「リビジョンの表示」、「次のグループへのプロモート」、「プロモーショングループの割り当て」、「プロモーショングループの変更」、「プロモーショングループの削除」、「プロジェクトの作成」、「プロジェクトの変更」、「プロジェクトの削除」、「プロジェクトのコピー」、「バージョン管理ファイルの追加および削除」、「プロジェクトの設定」、「セキュリティの設定」、および「ジャーナルの表示」。
開発	「プロジェクトリーダー」権限セットから、「プロジェクトの作成」、「プロジェクトの設定」、「プロジェクトのコピー」、「プロジェクトの削除」、「バージョン管理ファイルの追加」、「バージョン管理ファイルの削除」、「プロジェクトの変更」、「セキュリティの設定」を除いたもの。
ドキュメント	「品質保証」権限セットおよび、「チップリビジョンのロック」、「チップ以外のリビジョンのロック」、ロック解除」、「チップリビジョンのチェックアウト」、「チップ以外のリビジョンのチェックアウト」、「チップリビジョンのチェックイン」、「ブランチのチェックイン」、「アーカイブの作成」
品質保証	「サポート」権限セットおよび「バージョンラベルの割り当て」、「バージョンラベルの削除」、「バージョンラベルの変更」、「次のグループへのプロモート」、「プロモーショングループの割り当て」、「プロモーショングループの変更」、「プロモーショングループの削除」。
サポート	「アーカイブヘッダの表示」、「リビジョンの表示」、「ジャーナルの表示」

PUT コマンド

put [*option...*] *file_name...*

オプション	使用する構文	用途
@	@[*list_file*]	追加コマンドラインオプション用に *list_file* を読み込みます。
-#	-#*code*	診断機能を選択します。*code* の可能性のある値は以下のとおりです。 1 コンフィグレーションファイルの各行を、処理するときに表示します。 2 内部エラーを表示します。 4 版権とバージョンの表示 / 非表示を切り替えます。 500 アーカイブの所有者、アクセス情報、ユーザ ID、権限を表示します。
-a	-a[*user_id*[,*user_id...*]]	アーカイブの作成時にアクセスリストを指定します。
-b		リビジョンの比較時に先行または後続の空白を無視します。
-c	-c[- | *configuration_file* | *directory_name*]	代替コンフィグレーションファイルのファイル名または場所を指定します。

オプション	使用する構文	用途
-f		以前のリビジョンと同じであった場合でもリビジョンを保存します。
-fb		ロックされたリビジョンがチップであった場合でも、ブランチとしてリビジョンを保存します。
-g	-g*promotion_group*	プロモーショングループによってリビジョンを保存します。
-h		コマンドラインオプションのヘルプを表示します。
-l		リビジョンを保存した後、ロックしてすぐにチェックアウトします。
-m	-m*text*	コマンドラインから変更の説明を指定します。
	-m@*file_name*	`file_name` から変更の説明を読み取ります。
	-m@	作業ファイル名から派生された名前を持つファイルから変更の説明を読み取ります。
	-m@*dir*	作業ファイル名から派生された名前を持ち、*dir* にあるファイルから変更の説明を読み取ります。
-p		すべてのプロンプトに対して、自動的に no で応答します。
-q		サイレントモードを選択し、すべてのプロンプトに対して、自動的に yes で応答します。
-qo		サイレントモードを選択します。
-r	-r[*revision_number* | `version_label` | `promo_group`]	指定されたリビジョン番号でリビジョンを保存します。
-s	-s*suffix_template*	代替拡張子テンプレートを指定します。
-t	-t*text*	コマンドラインから作業ファイルの説明を指定します。
	-t@*file_name*	*file_name* から作業ファイルの説明を読み取ります。
	-t@	作業ファイル名から派生された名前を持つファイルから作業ファイルの説明を読み取ります。
	-t@*dir*	作業ファイル名から派生された名前を持ち、*dir* にあるファイルから作業ファイルの説明を読み取ります。
-u		リビジョンを保存した後、ロックせずにすぐチェックアウトします。
-v	-v*version_label*	指定されたバージョンラベルでリビジョンを保存します。
	-v*floating_version*:*	関連付けられている浮動バージョンラベルでリビジョンを保存します。
-xcolumnmask	-xcolumnmask="`start_end` [(numeric)]..."	変更情報の生成時に 無視する列を指定します。
-xe	-xe*file_name*	*file_name* にエラーメッセージをリダイレクトします。
-xo	-xo*file_name*	標準出力を *file_name* にリダイレクトします。
-xo+e	-xo+e*file_name*	標準出力とエラーメッセージを *file_name* にリダイレクトします。
-xrecordlength	-xrecordlength= *record_length*	作業ファイルのレコード長を変更します。
-y		すべてのプロンプトに対して、自動的に yes で応答します。

READDB コマンド

readdb [`option...`]

オプション	使用する構文	用途
@	@[*list_file*]	追加コマンドラインオプション用に *list_file* を読み込みます。
-#	-#*code*	診断機能を選択します。`code` の可能性のある値は以下のとおりです。 1 コンフィグレーションファイルの各行を、処理するときに表示します。 2 内部エラーを表示します。 4 版権とバージョンの表示 / 非表示を切り替えます。 500 アーカイブの所有者、アクセス情報、ユーザ ID、権限を表示します。
-a	-a*database_name*	アクセスコントロールデータベースの名前を指定します。
-c	-c[- | *configuration_file* | *directory_name*]	代替コンフィグレーションファイルのファイル名または場所を指定します。
-h		コマンドラインオプションのヘルプを表示します。
-p		現在のユーザのパスワードを表示します。
-xe	-xe*file_name*	*file_name* にエラーメッセージをリダイレクトします。
-xo	-xo*file_name*	標準出力を *file_name* にリダイレクトします。
-xo+e	-xo+e*file_name*	標準出力とエラーメッセージを *file_name* にリダイレクトします。

REGEN コマンド

regen [`option...`] `reference_file delta_file` [> `target_file`]

オプション	使用する構文	用途
@	@[*list_file*]	追加コマンドラインオプション用に *list_file* を読み込みます。
-#	-#*code*	診断機能を選択します。*code* の可能性のある値は以下のとおりです。 1 コンフィグレーションファイルの各行を、処理するときに表示します。 2 内部エラーを表示します。 4 版権とバージョンの表示 / 非表示を切り替えます。 500 アーカイブの所有者、アクセス情報、ユーザ ID、権限を表示します。
-h		コマンドラインオプションのヘルプを表示します。
-xe	-xe*file_name*	*file_name* にエラーメッセージをリダイレクトします。
-xo	-xo*file_name*	標準出力を *file_name* にリダイレクトします。
-xo+e	-xo+e*file_name*	標準出力とエラーメッセージを *file_name* にリダイレクトします。

リビジョン範囲の指定

使用する構文	選択する範囲
**revision*	このブランチ上の、このリビジョンとそれまでのすべてのリビジョン。
*revision**	同じブランチ上の、指定したリビジョンとそれに続くすべてのリビジョン。
*rev*rev*	同じブランチ上の、指定した範囲内のすべてのリビジョン（両端のリビジョンを含む）。
branch	指定したブランチ上のすべてのリビジョン。
*	すべてのトランクリビジョン。

RSE コマンド

rse `command` [> `output_file`]

ユーザ定義

user [=] `user_id`[/`password`] [(`privilege...`)] [–d `date_range`]

VCOMPRES コマンド

vcompres [*option...*] *file_name...*

オプション	使用する構文	用途
@	@[*list_file*]	追加コマンドラインオプション用に *list_file* を読み込みます。
-#	-#*code*	診断機能を選択します。*code* の可能性のある値は以下のとおりです。 1 コンフィグレーションファイルの各行を、処理するときに表示します。 2 内部エラーを表示します。 4 版権とバージョンの表示 / 非表示を切り替えます。 500 アーカイブの所有者、アクセス情報、ユーザ ID、権限を表示します。
-c	-c[- | *configuration_file* | *directory_name*]	代替コンフィグレーションファイルのファイル名または場所を指定します。
-d		デルタのみの圧縮または解凍を行います。
-h		コマンドラインオプションのヘルプを表示します。
-q		サイレントモードを選択します。
-u		データを圧縮解除します。
-w		作業イメージのみの圧縮または解凍を行います。

オプション	使用する構文	用途
-xe	-xe*file_name*	*file_name* にエラーメッセージをリダイレクトします。
-xo	-xo*file_name*	標準出力を *file_name* にリダイレクトします。
-xo+e	-xo+e*file_name*	標準出力とエラーメッセージを *file_name* にリダイレクトします。

VCONFIG コマンド

vconfig [*option...*] *file_name...*

オプション	使用する構文	用途
@	@[*list_file*]	追加コマンドラインオプション用に *list_file* を読み込みます。
-#	-#*code*	診断機能を選択します。*code* の可能性のある値は以下のとおりです。 1 コンフィグレーションファイルの各行を、処理するときに表示します。 2 内部エラーを表示します。 4 版権とバージョンの表示 / 非表示を切り替えます。 500 アーカイブの所有者、アクセス情報、ユーザ ID、権限を表示します。
-a	-a[*database_name*]	アクセスコントロールデータベースの名前と格納場所を埋め込みます。
-c	-c[*file_name*]	マスターコンフィグレーションファイルの名前を埋め込みます。
-h		コマンドラインオプションのヘルプを表示します。
-i	-i[*source*[,*source...*]]	ユーザ ID ソースを埋め込みます。
-l		このオプションを使用して、国際化対応言語を指定します（利用できない場合あり）。
-pl または -pm		DLL ファイルでロケールまたはメッセージパスを指定します。
q		サイレントモードを選択します。
-sn または --sy		セキュリティモードまたはセキュリティ対象外モードを指定します。
-u		実行ファイルから埋め込んだ名前を削除します。
-xe	-xe*file_name*	*file_name* にエラーメッセージをリダイレクトします。
-xo	-xo*file_name*	標準出力を *file_name* にリダイレクトします。
-xo+e	-xo+e*file_name*	標準出力とエラーメッセージを *file_name* にリダイレクトします。

VCS コマンド

vcs [*option...*] *file_name...*

オプション	使用する構文	用途
@	@[*list_file*]	追加コマンドラインオプション用に *list_file* を読み込みます。
-#	-#*code*	診断機能を選択します。*code* の可能性のある値は以下のとおりです。 1 コンフィグレーションファイルの各行を、処理するときに表示します。 2 内部エラーを表示します。 4 版権とバージョンの表示 / 非表示を切り替えます。 500 アーカイブの所有者、アクセス情報、ユーザ ID、権限を表示します。
-a	-a[*user_id*[,*user_id*...]]	アクセスリストにユーザ ID を追加します。
-c	-c[- | *configuration_file* | *directory_name*]	代替コンフィグレーションファイルのファイル名または場所を指定します。
-ec	-ec*string*	Log キーワード展開時に、*string* で指定したコメント接頭辞を使用します。
-en	-en*string*	Log キーワード展開時に、*string* で指定した改行シーケンスを使用します。
-g	-g*promotion_group*:*revision_number* | :*version_label*	*promotion_group* に 1 つ以上のリビジョンを関連付けます。
	-g*promotion_group*:delete	リビジョンとプロモーショングループ間の関連を削除します。
-h		コマンドラインオプションのヘルプを表示します。
-i		リビジョンを含まないアーカイブを作成します。
-l	-l[*revision_number* | *version_label* | *promo_group*]	リビジョンのロック。
-m	-m*text*	コマンドラインから変更の説明を指定します。
	-m@*file_name*	*file_name* から変更の説明を読み取ります。
	-m@	作業ファイル名から計算された名前を持つファイルから変更の説明を読み取ります。
	-m@*directory*	作業ファイル名から派生された名前を持ち、*directory* にあるファイルから変更の説明を読み取ります。
-p		すべてのプロンプトに対して、自動的に no で応答します。
-o	-o*user_id*	アーカイブの所有者を変更します。
pc	+pc | -pc	作業ファイルイメージの圧縮を有効（+）または無効（-）にします。
pd	+pd | -pd	デルタの圧縮を有効（+）または無効（-）にします。
pe	+pe | -pe	排他ロックを有効（+）または無効（-）にします。
pg	+pg | -pg	デルタの生成を有効（+）または無効（-）にします。

オプション	使用する構文	用途
pk	+pk | -pk	キーワード展開を有効（+）または無効（-）にします。
pl	+pl | -pl	ロックのチェックを有効（+）または無効（-）にします。
pt	+pt | -pt	ファイル変換を有効（+）または無効（-）にします。
pw	+pw | -pw	アーカイブの書き込み保護を有効（+）または無効（-）にします。
-q		サイレントモードを選択し、すべてのプロンプトに対して、自動的に yes で応答します。
-qo		サイレントモードを選択します。
-qn		サイレントモードを選択し、すべてのプロンプトに対して、自動的に no で応答します。
-r	-r[*revision_number*]	VCS オペレーションのリビジョンを選択します。
-s	-s*suffix_template*	代替拡張子テンプレートを指定します。
-t	-t*text*	コマンドラインから作業ファイルの説明を指定します。
	-t@*file_name*	*file_name* から作業ファイルの説明を読み取ります。
	-t@	作業ファイル名から派生された名前を持つファイルから作業ファイルの説明を読み取ります。
	-t@*directory*	作業ファイル名から派生された名前を持ち、*directory* にあるファイルから作業ファイルの説明を読み取ります。
-u	-u[*revision_number* | *version_label* | *promo_group*]	リビジョン番号またはバージョンラベルによりリビジョンのロックを解除します。
	-u:[*user* | *]]	*user* によって実行されたすべてのロックを解除します。
-v	-v*version_label*	指定されたアーカイブのトランクチップリビジョンにバージョンラベルを割り当てます。
	-v*version_label*:[*revision_number* | *version_label* | *promotion_group*]	*revision_number* または `version_label` に関連付けられたリビジョンに *version_label* を割り当てます。
	-v*new_version_label*:: *old_version_label*	*old_version_label* を *new_version_label* に置換します。
	-v*version_label*:delete	*version_label* を削除します。
	-v*floating_label*:*revision_number**	*floating_label* を *revision_number* に割り当てます。
	-v*floating_label*:*version_label**	*floating_label* を *version_label* に割り当てます。
	-v*version_label*:*	*version_label* を浮動ラベルに変換します。
-w	-w*workfile_name archive_name*	アーカイブに保存した作業ファイル名を変更します。
-xcolumnmask	-xcolumnmask="*start_end* [(numeric)]..."	変更情報の生成時に無視する列を指定します。
-xe	-xe*file_name*	*file_name* にエラーメッセージをリダイレクトします。
-xo	-xo*file_name*	標準出力を *file_name* にリダイレクトします。
-xo+e	-xo+e*file_name*	標準出力とエラーメッセージを *file_name* にリダイレクトします。
-xrecordlength	-xrecordlength=*record_length*	作業ファイルのレコード長を変更します。

オプション	使用する構文	用途
-xrenumber	-xrenumber "*start–end* [from *start* by *number*]"	作業ファイルのチェックアウト時に番号を付け直す列の範囲を変更します。
	-xrenumber=cobol	COBOL ファイルで作業ファイルのチェックアウト時に番号を付け直す列の範囲を変更します。
-y		すべてのプロンプトに対して、自動的に yes で応答します。

VDEL コマンド

vdel [*option*...] *file_name*...

オプション	使用する構文	用途
@	@[*list_file*]	追加コマンドラインオプション用に *list_file* を読み込みます。
-#	–#*code*	診断機能を選択します。*code* の可能性のある値は以下のとおりです。 1 コンフィグレーションファイルの各行を、処理するときに表示します。 2 内部エラーを表示します。 4 版権とバージョンの表示 / 非表示を切り替えます。 500 アーカイブの所有者、アクセス情報、ユーザ ID、権限を表示します。
-c	–c[– | *configuration_file* | *directory_name*]	代替コンフィグレーションファイルのファイル名または場所を指定します。
-h		コマンドラインオプションのヘルプを表示します。
-q		サイレントモードを選択し、リビジョンを削除する権限を提供します。
-qo		サイレントモードを選択します。
-r	–r[*revision_number* | *range*][+]	範囲で開始されるリビジョンの範囲とすべてのブランチを削除します。
-s	–s*suffix_template*	代替拡張子テンプレートを指定します。
-v	–v*version_label* | *version_range*[+]	範囲で開始されるバージョンの範囲とすべてのブランチを削除します。
-xe	–xe*file_name*	*file_name* にエラーメッセージをリダイレクトします。
-xo	–xo*file_name*	標準出力を *file_name* にリダイレクトします。
-xo+e	–xo+e*file_name*	標準出力とエラーメッセージを *file_name* にリダイレクトします。
-y		リビジョンを削除する権限を事前に提供します。

VDIFF コマンド

vdiff [*option...*] *reference_file target_file*

オプション	使用する構文	用途
@	@[*list_file*]	追加コマンドラインオプション用に *list_file* を読み込みます。
-#	–#*code*	診断機能を選択します。*code* の可能性のある値は以下のとおりです。 1 コンフィグレーションファイルの各行を、処理するときに表示します。 2 内部エラーを表示します。 4 版権とバージョンの表示 / 非表示を切り替えます。 500 アーカイブの所有者、アクセス情報、ユーザ ID、権限を表示します。
-a		すべての相違を表示します。
-b		先行または後続の空白を無視します。
-c	–c[– | *configuration_file* | *directory_name*]	代替コンフィグレーションファイルの file_name または場所を指定します。
-d		Verson Manager 形式でデルタファイルを生成します。
	–d@*delta_configuration_file*	*delta_configuration_file* パラメータで指定されたデルタコンフィグレーションファイルを使用します。
-dl		CA-LIBRARIAN 形式でデルタファイルを生成します。
-dp		CA-PANVALET 形式でデルタファイルを生成します。
-ds		Verson Manager 形式でデルタファイルを生成します。
-e	–e[0]	タブの展開を抑止します。
	–e*number*	タブ展開でタブストップ間のカラム数を指定します。
-h		コマンドラインオプションのヘルプを表示します。
-l	–l*number*	コンテキスト行の数を指定します。
-p		VDIFF レポートから行番号を排除します。
-q		サイレントモードを選択し、既存の作業ファイルを上書きする権限を提供します。
-r	–r[*revision_number*]	比較するリビジョンを選択します。
-s	–s*suffix_template*	代替拡張子テンプレートを指定します。
-t		テストモードを選択します。
-v	–v*version_label*	比較するバージョンを選択します。
-xcolumnmask	–xcolumnmask="*start–end*[(numeric)]..."	変更情報の生成時に無視する列を指定します。
-xe	–xe*file_name*	*file_name* にエラーメッセージをリダイレクトします。
-xo	–xo*file_name*	*file_name* に相違情報をリダイレクトします。
-xo+e	–xo+e*file_name*	標準出力とエラーメッセージを *file_name* にリダイレクトします。
-xrecordlength	–xrecordlength= *record_length*	作業ファイルのレコード長を変更します。

バージョン範囲の指定

使用する構文	選択する範囲
**version*	このブランチ上の、このバージョンとそれまでのすべてのバージョン。
*version**	同じブランチ上の、指定したバージョンとそれに続くすべてのバージョン。
*ver*ver*	同じブランチ上の、指定した範囲内のすべてのリビジョン（両端のリビジョンを含む）。

VJOURNAL コマンド

vjournal [*option*...] [*journal_file*...]

オプション	使用する構文	用途
@	@[*list_file*]	追加コマンドラインオプション用に *list_file* を読み込みます。
-#	–#*code*	診断機能を選択します。*code* の可能性のある値は以下のとおりです。 1 コンフィグレーションファイルの各行を、処理するときに表示します。 2 内部エラーを表示します。 4 版権とバージョンの表示 / 非表示を切り替えます。 500 アーカイブの所有者、アクセス情報、ユーザ ID、権限を表示します。
-c	–c[– | *configuration_file* | *dir*ectory_name]	代替コンフィグレーションファイルのファイル名または場所を指定します。
-d	–d*date_range*	日付または時間範囲のジャーナルエントリを表示します。
-h		コマンドラインオプションのヘルプを表示します。
-l	–l*archive*[,*archive*...]	アーカイブのコンマ区切りリストでジャーナルエントリを表示します。
-o	–o*command*[,*command*...]	指定したコマンドのジャーナルエントリを表示します。
-u	–u*user_id*[,*user_id*...]	指定したユーザ ID のジャーナルエントリを表示します。
-xe	–xe*file_name*	*file_name* にエラーメッセージをリダイレクトします。
-xl	–xl[*user_id*[, *user_id*...]	指定したユーザ ID によって現在ロックされているリビジョンを表示します。
-xo	–xo*file_name*	標準出力を *file_name* にリダイレクトします。
-xo+e	–xo+e*file_name*	標準出力とエラーメッセージを *file_name* にリダイレクトします。

VLOG コマンド

vlog [*option*...] [*file_name*...]

オプション	使用する構文	用途
@	@[*list_file*]	追加コマンドラインオプション用に *list_file* を読み込みます。
-#	–#*code*	診断機能を選択します。*code* の可能性のある値は以下のとおりです。 1 コンフィグレーションファイルの各行を、処理するときに表示します。 2 内部エラーを表示します。 4 版権とバージョンの表示 / 非表示を切り替えます。 500 アーカイブの所有者、アクセス情報、ユーザ ID、権限を表示します。
-a	–a*user_id*[,*user_id*...]	特定のユーザによって保存されたリビジョンを表示します。
-b		アーカイブ情報を表示します。リビジョン情報は表示しません。
-bc	–bc*revision_number* | `version_label` | *promo_group*	*revision_number* または *version_label* と同じではないチップリビジョンを含むアーカイブを表示します。
-bg	–bg*promotion_group*	指定したプロモーショングループに関連付けられているリビジョンを表示します。
-bl	–bl[*user_id*[, *user_id*...]]	`user_id` によって現在ロックされているリビジョンのアーカイブ名、ロックしたユーザの ID、ロックされているリビジョン、チェックインリビジョン番号を表示します。
-bn	–bn[*branch*]	*branch* にある最新のリビジョンを表示します。
-br	–br[*revision_number* | *revision_range* | *branch*]	指定したリビジョン、リビジョンの範囲、またはブランチリビジョンの情報を表示します。
	–br`version_label` | *version_range*	指定したリビジョン、リビジョンの範囲、またはブランチリビジョンの情報を表示します。
-bv	–bv[*version_label*]	*version_label* に対応するリビジョン番号を表示します。
-c	–c[– | *configuration_file* | *dir*`ectory_name`]	代替コンフィグレーションファイルのファイル名または場所を指定します。
-d	–d*date_range*	*date_range* 内でチェックインされたリビジョンを表示します。
-g	–g*promotion_group*	*promotion_group* に関連付けられているリビジョンを表示します。
-h		コマンドラインオプションのヘルプを表示します。
-i		インデントをオフにします。
-l	–l[*user_id*[,*user_id*...]]	指定したユーザによってロックされたアーカイブの情報を表示します。
-o	–o*user_id*[,*user_id*...]	指定した所有者を持つアーカイブの情報を表示します。
-q		サイレントモードを選択します。
-r	–r[*revision_number* | *range*]	リビジョンまたはリビジョンの範囲に関する情報を表示します。
-s	–s*suffix_template*	代替拡張子テンプレートを指定します。
-u		現在のユーザ ID および ID ソースを表示します。
-v	–v*version_label* | *version_range* [+]	指定したバージョンに関連付けられたアーカイブの情報を表示します。
-xe	–xe*file_name*	*file_name* にエラーメッセージをリダイレクトします。

オプション	使用する構文	用途
-xo	–xo*file_name*	標準出力を *file_name* にリダイレクトします。
-xo+e	–xo+e*file_name*	標準出力とエラーメッセージを *file_name* にリダイレクトします。

VMRG コマンド

vmrg [`option...`] `parent_rev branch_point1 branch_point2`

オプション	使用する構文	用途
@	@[*list_file*]	追加コマンドラインオプション用に *list_file* を読み込みます。
-#	–#*code*	診断機能を選択します。*code* の可能性のある値は以下のとおりです。 1 コンフィグレーションファイルの各行を、処理するときに表示します。 2 内部エラーを表示します。 4 版権とバージョンの表示 / 非表示を切り替えます。 500 アーカイブの所有者、アクセス情報、ユーザ ID、権限を表示します。
-a		自動マージに BaseVersion および BranchVersion ディレクティブを使用します。
-c	–c[– | *configuration_file* | *dir*`ectory_name`]	代替コンフィグレーションファイルのファイル名または場所を指定します。
-g	–g*promotion_group*	特定の製造グループに関連付けられたリビジョンを指定します。
-h		コマンドラインオプションのヘルプを表示します。
-m		複数の作業ファイルまたはアーカイブをマージします。
-p		すべてのプロンプトに対して、自動的に no で応答します。
-o	–o[*file_name*]	マージしたファイルを *file_name* または標準出力にリダイレクトします。
-r	–r[`revision_number`]	リビジョンを指定します。
-s	–s*suffix_template*	代替拡張子テンプレートを指定します。
-v	–v[*version_label*]	バージョンを指定します。
-xe	–xe*file_name*	*file_name* にエラーメッセージをリダイレクトします。
-xo	–xo*file_name*	標準出力を *file_name* にリダイレクトします。
-o+e	–xo+e*file_name*	標準出力とエラーメッセージを *file_name* にリダイレクトします。
-		すべてのプロンプトに対して、自動的に yes で応答します。

VPROMOTE コマンド

vpromote [*option...*] *file_name...*

オプション	使用する構文	用途
–#	@[*list_file*]	追加コマンドラインオプション用に *list_file* を読み込みます。
–c	–#*code*	診断機能を選択します。*code* の可能性のある値は以下のとおりです。 1コンフィグレーションファイルの各行を、 処理するときに表示します。 2内部エラーを表示します。 4版権とバージョンの表示 / 非表示を切り替えます。 500 アーカイブの所有者、アクセス情報、ユーザ ID、権限を表示します。
–g	–c[– | *configuration_file* | *directory_name*]	代替コンフィグレーションファイルのファイル名または場所を指定します。
–h	–g*promote_from_group*	プロモートするプロモーショングループを指定します。
–#		コマンドラインオプションのヘルプを表示します。

VSPLIT コマンド

注記 このコマンドは、Version Manager File Server でのみ使用されます。詳細については、『*Serena ChangeMan Version Manager コマンドラインリファレンスガイド*』を参照してください。

vsplit [*option...*] *path...*

オプション	使用する構文	用途
@	@[*list_file*]	追加コマンドラインオプション用に *list_file* を読み込みます。
–		コマンドラインオプションのヘルプを表示します。
-l		アーカイブを一覧表示しますが、分割は行いません。
-n		すべての「Yes/No」形式のクエリーに対して「No」の応答を強制します。
-r		再帰的な動作（ディレクトリパスに適用）。
-u		アーカイブの分割を解除し、非圧縮アーカイブ形式に戻します。
-v		詳細モードを指定します。
–e	–x*efile_name*	*file_name* にエラーメッセージをリダイレクトします。
–o	–xo*file_name*	標準出力を *file_name* にリダイレクトします。
-y		すべての「Yes/No」形式のクエリーに対して「Yes」の応答を強制します。

VSQL コマンド

vsql [*option...*] *file_name...*

オプション	使用する構文	用途
@	@[*list_file*]	追加コマンドラインオプション用に *list_file* を読み込みます。
-#	–#*code*	診断機能を選択します。*code* の可能性のある値は以下のとおりです。 1 コンフィグレーションファイルの各行を、処理するときに表示します。 2 内部エラーを表示します。 4 版権とバージョンの表示 / 非表示を切り替えます。 500 アーカイブの所有者、アクセス情報、ユーザ ID、権限を表示します。
-c	–c[– | *configuration_file* | *directory_name*]	代替コンフィグレーションファイルのファイル名または場所を指定します。
-di	–di*integer*	INTEGER カラムタイプの定義に対して代替を指定します。
-dl	–dl[*file_name*]	テーブルとビューを作成するために、SQL コマンドを含むファイルを生成します。
-dt	–dt*timestamp*	Timestamp カラムタイプの定義に対して代替定義を指定します。
-dv	–dv*varchar_def*	長精度型変数文字カラムタイプの定義に対して代替定義を指定します。
-e	–e[*character*]	埋め込んだ区切り文字の代わりに使用される文字を指定します。
-ft	–ft*time_format*	タイムスタンプフィールドの代替形式を指定します。
-g	–g[*character*]	フィールドの区切り文字を指定します。
-h		コマンドラインオプションのヘルプを表示します。
-i	–i[*character*]	埋め込んだフィールドの区切り文字の代わりに使用される文字を指定します。
-j	–j[*character*]	行継続文字を指定します。
-k	–k*number*	出力コマンドファイルの最大行長を指定します。
-l	–l[*character*]	埋め込んだ行継続文字の代わりに使用される文字を指定します。
-mh	–mh*file_name*	最初のレコードとしてカラム名を持つ CSV 形式ファイルのセットを生成します。
-ml	–ml[*file_name*]	SQL DML 形式の Insert 文を生成します。
-mv	–mv*file_name*	CSV 形式でファイルを生成します。
-p	–n[*character*]	埋め込んだ改行文字の代わりに使用される文字を指定します。
-o	–o[*character*]	文字列区切り文字を指定します。
-q		サイレントモードを選択します。
-r		DDL コマンドラインで SQL DROP 文を生成します（-dL を使用）。
-s	–s*suffix_template*	代替拡張子テンプレートを指定します。
-t	–t[*character*]	SQL 文の終了文字を指定します。
-u		アップデート文を生成します。
-xe	–xe*file_name*	*file_name* にエラーメッセージをリダイレクトします。
-xo	–xo*file_name*	標準出力を *file_name* にリダイレクトします。
-xo+e	–xo+e*file_name*	標準出力とエラーメッセージを *file_name* にリダイレクトします。

VTRANSFER コマンド

注記 このコマンドは、Version Manager File Server でのみ使用されます。詳細については、『*Serena ChangeMan Version Manager コマンドラインリファレンスガイド*』を参照してください。

vtransfer [*option*...] *archivePath* [`secondaryPath`]

オプション	使用する構文	用途
@	@[*list_file*]	追加コマンドラインオプション用に *list_file* を読み込みます。
-d		すべてのリビジョンおよびメタデータを含み、`archivePath` で指定されたアーカイブを削除します。
–		コマンドラインオプションのヘルプを表示します。
-f		メタデータ内の指定した場所にリビジョンを移動することによって、メタデータとリビジョンデータ間のリレーションを修正します。
-i		*secondaryPath* で指定した zip ファイルから、*archivePath* で指定したアーカイブの場所まで、アーカイブとそのリビジョンをインポートします。
-m		-x とともに使用し、メタデータ内の指定した場所からリビジョンをエクスポートします。
-n		すべての「Yes/No」形式のクエリーに対して「No」の応答を強制します。
-r		*secondaryPath* で指定した名前にアーカイブ名を変更、または、ここで指定した場所にアーカイブを移動します。
-x		*archivePath* で指定したアーカイブのメタデータとリビジョンデータをエクスポートし、*secondaryPath* で指定した 1 つの *.zip ファイルに書き込みます。リビジョンは、*archivePath* によって表される場所からエクスポートされます。 メタデータ内の指定した場所からリビジョンをエクスポートするには、**-m** オプションを併用します。
–e	–x*efile_name*	*file_name* にエラーメッセージをリダイレクトします。
–o	–x*ofile_name*	標準出力を *file_name* にリダイレクトします。
-y		すべての「Yes/No」形式のクエリーに対して「Yes」の応答を強制します。